

平成30年2月5日

一般社団法人日本解剖学会  
会員 各位

一般社団法人日本解剖学会  
理事長 岡部 繁男

### 実践的な手術手技向上研修事業（厚労省）の平成30年度予算について

平成30年1月26日に開催されたCST（cadaver surgical training）推進委員会および「献体による効果的な医療技術教育システムの普及促進に関する研究（厚労省地域医療基盤開発推進研究事業）」の会議に出席した解剖学会会員から以下のような情報が寄せられましたのでお知らせいたします。

CST推進委員会の会議の席上、厚労省医政局医事課の井上裕介医事係長から、「実践的な手術手技向上研修事業」の来年度予算について説明がありました。概要は以下の通りです。次頁の図を参照ください。

1. 現在国会審議中の来年度の予算では、今年度（44,549千円）に比べて約7倍の294,996千円となる予定。
2. これは、既存CST実施大学への委託費（85,306千円）と新規および既存CST実施大学への設備整備費（209,690千円）に分けられる。
3. 委託費は既存CST実施大学を対象とし、さらなる実施推進および研修の充実を目的とするもの。公募は（予算の成立を待って）年度内にも始まる予定。
4. 設備整備費はあらたにCSTを始めようとする大学および既存実施の大学の備品購入（施設費は入らない）のための費用の一部を支出するもの。国が費用の2分の1、都道府県が2分の1を負担することとなる。補助金の上限額等はまだ決まっていないが、今年度末までには決まる予定。公募は6～7月ごろとなる見通し。各都道府県には話が行っているはずなので、都道府県との協議を行って応募してほしい。
5. これら2つの補助金は一つの大学で重複して応募することも可能である。
6. 厚労省としては、CST推進のためになるべく多くの大学に補助金を出したいと考えている。また、これらの予算は再来年度以降も確保していきたいと考えている。

以上

これらの情報は、未定のものも多く、今後変わる可能性があります。一部の公募は今年度中にも始まるかも知れないということですので、関係する解剖学会会員の皆様にいち早くお伝えすべき情報と判断いたしました。今後も新しい情報が入り次第周知するよう努力いたします。なお、この件に関するお問い合わせは厚労省医政局医事課医事係にお願いします。

# 実践的な手術手技向上研修事業

平成30年度予算案 **294,996千円** (←29年度予算44,549千円)

## 現状と課題

- ・外科手術全体が開腹手術から内視鏡等による侵襲性の少ない方式に変化しており、このような手術は従来医療現場で行われてきた実施の医療提供の中で手術トレーニングが困難。
- ・内視鏡等による手術には、実際の死体を使ったサージカルトレーニングが有効であり、医療安全の観点からさらなる普及が必要。
- ・平成29年4月現在では15機関で実施されているが、既存予算は6機関分しか確保出来ていない。
- ・サージカルトレーニングの実施機関が地域的に遍在しており、一部の地域の医師は研修を受けづらい実態がある。
- ・新規実施する場合、新たな器具等が必要であり、経費の観点から新規参加が難しい実態がある。
- ・研修医等にも実施することで、外科に興味を持つ医師が増え、減少を続ける外科医対策として極めて有効との声がある。



## 対応案

### (1) 委託対象箇所数の増(44,549千円 → 85,306千円)

現在独自に実施している大学等に委託費を支出し、より充実した研修を可能とする。

### (2) 新規実施大学への財政支援(209,690千円)

あらたにサージカルトレーニングを実施する大学等に、設備整備に要する費用の一部を支出する。



厚生労働省



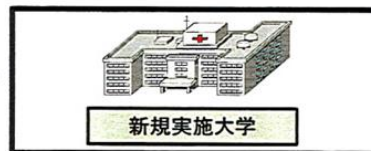
委託費



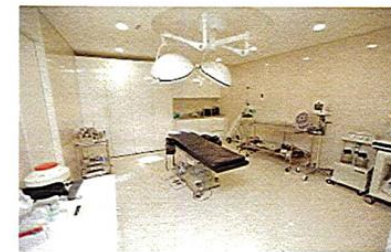
既存実施大学



設備整備費



新規実施大学



## 効果

- ・現在、一部の地域で行われているサージカルトレーニングが全国的に普及される。
- ・医師の研修体制の地域的が遍在解消され、全国的に医師の手術技能が向上する。
- ・先進的な手術の技能を多くの医師が習得できる。
- ・医師の手術技能向上により、医療の発展と向上が期待でき、さらに医療安全の推進にも資する。
- ・外科医確保にも寄与する。